



でした。これならば、日本でも、十分見える可能性があります！

とにかく一目見よう

地球と太陽と彗星の位置関係で、日本では、どう頑張っても3月6日以前に見える可能性はありません。彗星が尋常じゃなく明るくなれば、6日とか7日に見えるかもしれませんが、順当にいけば、8日から10日あたりが、初観測のチャンスになりそうです。もしも、誰もが簡単に肉眼で彗星を見つけられるほどになるならば、質問や問い合わせ、取材などもたくさん来るに違いありません。できればそれよりも早く、一日でも早く自分の目で見ておきたいと思い、8日、9日、10日と、連日夕方の空で彗星を探しましたが、天気の巡り合わせが悪く、結局、初めてパンスターズ彗星を捉えたのは3月11日でした。

見つけた印象は、「小さくて細長い！」でした。10×50の双眼鏡で観察していたのですが、鋭い中央集光からシュッとまっすぐに細い尾が伸びています。夕焼けの中に見つけるまでは、かなりうろうろと双眼鏡で探し回ったのですが、一度見つけてしまえば、割と簡単に分かります。しかし、肉眼では見つけることはできませんでした。

翌3月12日には、マスコミからの問い合わせもちらほらありましたが、「双眼鏡無しでは、難しいですね」とコメントすると、電話の向こうも少しがっかりした感じでした。まあ、大げさにあおっても意味がないので、仕方のないところですね。それよりも自分の中でびっくりしたのは、12日の夕方に再チャレンジして、全く彗星を見つけられなかったことでした。たしかに、12日は低空はやや薄雲が出てきていて、ベストの環境ではありま



撮影時刻:2013年3月14日18:47
露出:1/2秒 絞り:4.5(開放)
撮影地:大阪市中央区(大阪城)



せんでした。しかし、「この程度ならなんとか見えるだろう」という甘い予測は軽く打ち砕かれ、「スッキリと低空まで晴れている日でなければ、そう簡単には見えない」と再認識させられたのでした。この前後の動向は「うちゅう」4月号にもレポートしていますので、そちらの記事もご覧ください。

その後も3月中は、とにかくチャンスがありそうな天気なら、毎日必ず夕方に彗星を探していたのですが、実際に彗星を見ることができたのは、11日、14日、15日、21日の4回だけでした。本当に低空の気象条件が揃う日は少なかったのです。



(写真上)
 撮影時刻:2013年3月21日19:00
 露出:2秒 絞リ:4.5(開放)
 撮影地:大阪市中央区(大阪城)
 (写真左)
 撮影時刻:2013年4月1日4:55
 露出:8秒 絞リ:4.5(開放)
 撮影地:大阪府枚方市



このまま彗星は去っていくのか

3月14日の夕方の彗星は良く見えました。11日に見たよりも見つけやすく、双眼鏡で、しっぽのグラデーションを感じました。肉眼では、残念ながらこの日も見つけることはできませんでした。そして21日になると、明らかに14日より彗星が暗くなってきていました。

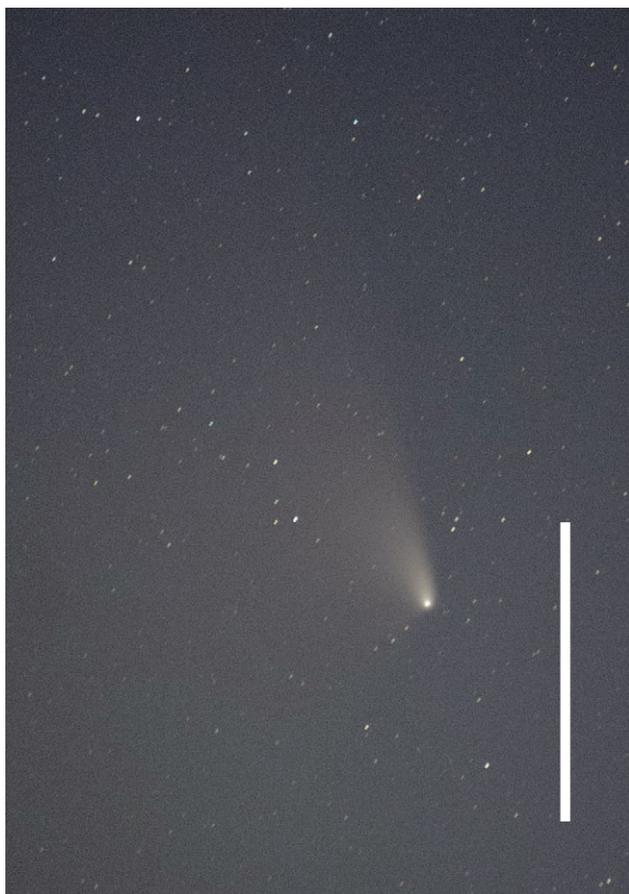
そして、3月も終わりの31日、この日も夕方彗星にチャレンジした



ものの、低空の雲が切れず、彗星は見つけられませんでした。しかし、この頃から、パンスターズ彗星は明け方にも観測チャンスが出てきていたのです。一度仮眠して、夜中に自宅から車で20分ほど走った、東の見晴らしがよい丘まで移動して、明け方の彗星を狙います。低空の薄雲があって苦労したものの、写真に収めることに成功しました。望遠鏡では彗星は見えたのですが、双眼鏡では見つけることができませんでした。いよいよ、彗星は暗くなってきているようです。もうこのまま、双眼鏡では歯が立たない領域に去ってしまうのか、と少し寂しく思いました。

驚きの大逆転

4月5日は休暇を取っていました。1日の朝に見た彗星は弱々しく、これ以上彗星を追うなら都会で頑張っても厳しいだろうと考え、4日の夜は、思い切って峰山高原まで出かけました。海拔1000m近く、北東側には都市はなく、細い月はあるものの、今の自分の状況では、ほぼ最高の観測環境のはず。夜中過ぎに到着したときには、まだ雲が所々残っていたものの、次第に快晴になっていき、3時半頃に首尾良く彗星を発見。10cmの屈折で見えるのは当然のこととして、7×50のファイン

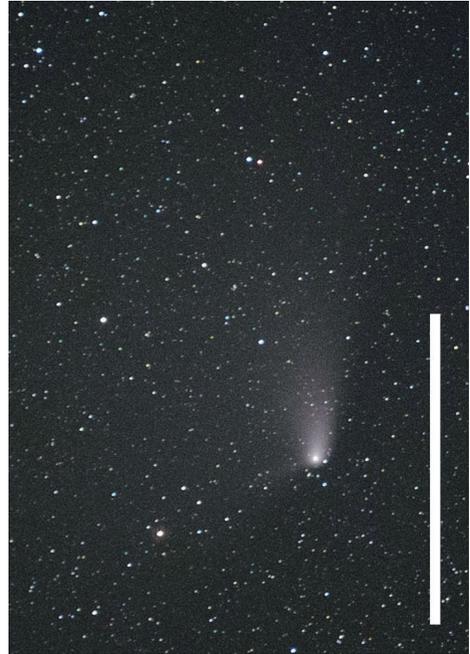


撮影時刻:2013年4月5日3:56 露出:180秒
絞り:4.5(開放) 撮影地:兵庫県神崎郡



いよいよ去りゆくパンスターズ彗星

15日の未明、峰山高原で、わずかな雲のすき間から見たパンスターズ彗星は、ちょっと違う雰囲気でした。それまでは、双眼鏡で見たときに、中央集光がしっかりしていて、すぐに、これだ！と見つけることができていたのですが、この日は、10×50の双眼鏡では、中央集光がよく分からない印象だったのです。いかんせん、天気が悪く、ほんの2、3分雲のすき間から見えただ



(写真左)

撮影時刻: 2013年4月18日3:34

露出: 240秒 絞り: 4.5(開放)

撮影地: 奈良県吉野郡

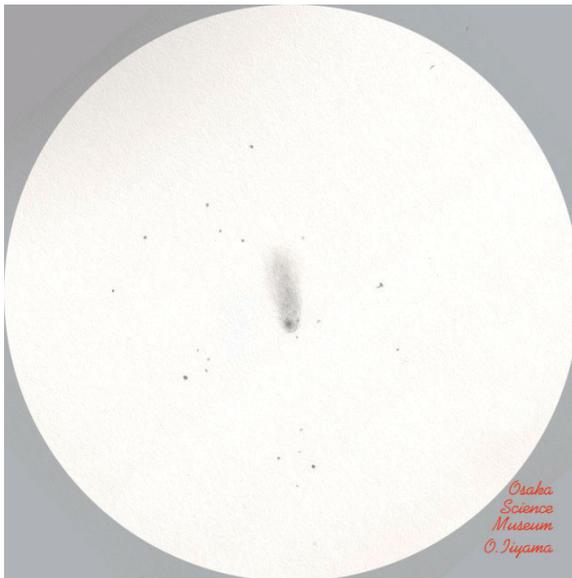
スケッチ(下)

2013年4月18日3:02~3:15

(彗星の位置取り3:07)

Vixen FL102S - Pentax XL21mm (×44)

灰色の円が直径約2°の目安



Osaka
Science
Museum
O. Iiyama

けなので、見間違いかもしれないし、薄雲のいたずらだったのかもしれない。

しかし、18日の未明に、奈良県の川上村で観察したときには、好天であったにもかかわらず、確かに10×50では中央集光がはっきりしませんでした。望遠鏡ではしっかりした中央集光が見えていたのに、双眼鏡だと分からない、というのはちょっと変な感じもするのですが、実際の素直な感



想として、そのように見えました。望遠鏡での見え方も、5日の朝のような、尾の片側がくっきりした印象から変わって、両サイドともグラデーションになったような見え方です。尾の輝きも淡くなってきているようです。それでも、淡いながらも、尾の長さはあまり短くなっていないように感じます。

22日の未明も、川上村にて。だんだん月が大きくなってきていて、薄明開始前に月が沈んで観測時間

(写真上)

撮影時刻: 2013年4月22日3:33

露出: 300秒 絞り: 4.5→5.0

撮影地: 奈良県吉野郡

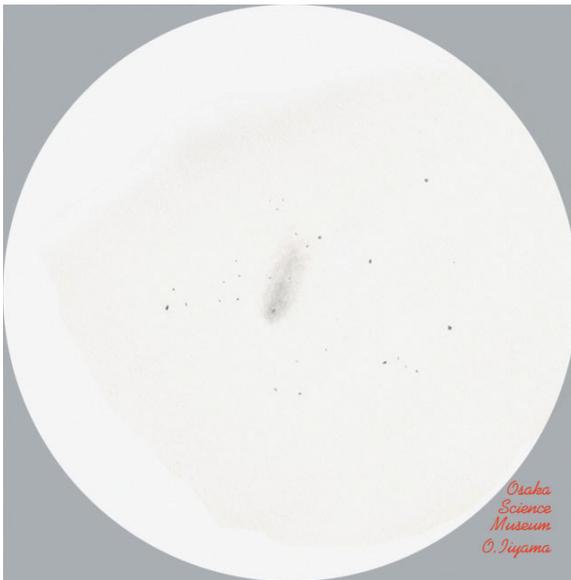
スケッチ(左)

2013年4月22日2:44~2:59

(彗星の位置取り2:52)

Vixen FL102S - Pentax XL21mm (×44)

灰色の円が直径約2°の目安



*Osaka
Science
Museum
O. Iiyama*

が取れるのはこの日までと思ひ、再び出かけてました。月があるうちは、彗星は弱々しい見え方しかなかったのですが、月が沈むとすっかり良く見えるようになりました。むしろ18日より良く見えるような気がします。18日は少し湿度の高い夜だったので、少し見え方が悪くなっていたのかもしれませんが。そして、やはり月があると、見え具合はぐっと落ちます。満月を過ぎて、月が小さくな



るゴールデンウィーク明けに、どのくらいの見え方を維持しているのでしょうか。さすがに太陽から遠ざかっていくので、しぼんでしまうとは思いますが、いきなりしぼが見えなくなったりはしないと思うので、もう少し追ってみたいと思います。

振り返って

3月中は、夕焼け空の中に見つけるのが難しかったため、事前の期待ほどには世間の話題にならなかったパンスターズ彗星でしたが、4月に入って、暗い空で観察できるようになると立派な姿を見せてくれました。4月8日の明け方にほんの短時間見えたパンスターズ彗星の姿は、とても最盛期を1月も過ぎた姿とは思えない立派さでした。ひょっとしたら、3月中も、空気の薄い高地まで行くことができ、素晴らしい晴天に恵まれていたら、もっと違った印象だったのかもしれませんが。

夕焼けと、都市光と、月明と、春霞と、薄雲と、いろいろな悪条件をかいくぐりながら、彗星を追い続けて思うのは、やはり彗星は、毎日毎日が新しい出会いであり、一期一会である、ということです。4月に入ってからは、仕事の日に遠出するのは難しいので、晴れていても出かけずに睡眠時間に充てた日もあったのですが、「せっかく休みなのに天気が悪くて」という日がそれほど多くなかったので、自分なりに割と満足できる追跡ができたように思います。

今、気になっているのは、4月8日の未明には、10×50の双眼鏡でもしっかりと中央集光が見えていたのに、15日の未明には、双眼鏡では中央集光が分からなくなっていたことです。直感的には、たった1週間の変化としては大きな変化のように感じます。とは言え、10cmの望遠鏡での観察ではちゃんと中央集光は見え続けているので、観測機材の関係で小さな変化が大げさに見えているのかもしれませんが。また、尾の片側がくっきりしていたのが、ぼやけてきたのもその頃で、関係があるような気がします。今更のことになってしまいますが、望遠鏡で見るときに、敢えて高倍率をかけて、中央集光の様子をもっと詳しく観察すると、彗星核の近傍で何か面白い現象が起きている片鱗を捕まえることができたのかも知れないという気もします。尾にばかり気が向きすぎていたのかも知れません。

そして、5月以降のパンスターズ彗星の動向は、どのようになるのでしょうか。本稿執筆時点ではまだ分かりませんが、まだ新しい発見に出会えるチャンスがありそうな気がします。

いいやま おおみ(科学館学芸員)

表紙写真は4月18日未明に撮影したパンスターズ彗星。